

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、マネジメントの実践に基づく論述、自らの考えに基づく論述が多かった。一方で、正確な予測を妨げる要因や外部環境の変化について、以降の論述との関連性が不明確だったり、経験が感じられなかったりする論述が散見された。また、マネジメント手法の一般論に終始したり、マネジメントやリーダーシップのスタイルの一般的な特性を述べるにとどまったりする論述も見受けられた。プロジェクトマネジメント業務を担う者として、プロジェクトの外部・内部の環境を的確に把握し、またその変化を識別して、知識や経験に基づきプロジェクトを適応させていくマネジメントを明確にした論述を心掛けてほしい。

問1

問1では、予測型のシステム開発プロジェクトにおいて、ステークホルダからの要求を踏まえてコストマネジメントに取り組む点については、実際の経験に基づいて論述していることがうかがわれた。一方で、プロジェクトに正確な予測を妨げる要因（以下、不確かさという）がある場合における、予測の精度を上げる活動については、ステークホルダとの協力を含む具体的な行動に関する論述を期待したが、見積手法に関して論述したり、抽象的な論述にとどまったりするなど、期待と異なる論述も見受けられた。プロジェクトマネジメント業務を担う者として、不確かさがあるプロジェクトでは、不確かさに対して適切に対応することによって、プロジェクトを成功に導いてほしい。

問2

問2では、プロジェクトチームのメンバーに対するリーダーシップに基づいた行動の発揮については、実際の経験に基づいて論述していることがうかがわれた。一方で、プロジェクトをマネジメントするための活動と、リーダーシップに基づいた行動とを混同している論述が見受けられた。プロジェクトチームの状態が悪化した場合には、メンバーの状況に応じて適切にリーダーシップを選択し、行動することが求められる。プロジェクトマネジメント業務を担う者として、リーダーシップに関するスキルを習得することや経験を積むことによって、プロジェクトでの実践につなげてほしい。